

厚生病院だより

すずかけ

第36号 平成23年11月15日 発行／鳥取県立厚生病院 編集／院内広報委員会

被災地の復興と穏やかな冬を

前号（第35号）では、すさまじい被害をもたらした東日本大震災（3月11日）に対する当院におけるささやかな対応（医療救援活動隊の反復派遣、院内における災害支援募金等）について、かなりの紙面を割いてご紹介いたしました。8か月を経過した今も、その大被害からあらゆる面で、未だ脱却・回復できていない面が多すぎて、胸の痛みが続きます。

昨年は、日本中が大雪に悩まされました。今年は、被災地の方々にとっても、少しでも寒さや雪の少ない冬を、また鳥取県においても、昨年のような大雪から解放された穏やかな冬を切に願うものです。

今号は、今年度上半期の当院の動きを中心にお知らせいたします。今後とも、あらゆる疾患への高度医療の更なる推進とともに、地域の医療機関や住民の皆様方に信頼される誠実な医療の提供に全力を尽くす所存でありますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



さわやかな秋晴れと色づく木々

院長 前田迪郎

厚生病院の基本理念

思いやりと優しさ、真心のこもった信頼される病院

優れた医療を提供し、地域と密着した病院

職員の和を尊び、働きがいのある病院

第36号の内容

被災地の復興と穏やかな冬を	… 1	近年の看護局の取組	… 5
160列CT装置の導入	… 2	秋藤医療局長の健対協会長表彰受章	… 5
地域医療連携室棟の新設	… 2	新任医師・退職者の紹介	… 6
医療安全・感染防止対策室の取組	… 3	各種研修・訓練の紹介	… 6
認定看護師紹介	… 3	外来診察日程表（23.11.15現在）	… 7
市民公開講座開催報告	… 4	お知らせ、病院概要	… 8

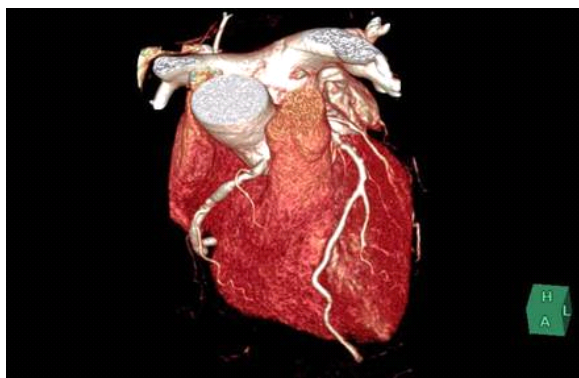
160列CT装置の導入

CT検査、CT撮影という言葉が聞かれた方、また、実際に検査を受けられた方は多くいらっしゃると思います。それだけCT検査は、救急医療やがん診療などに重要な役割を果たしており、当院でもCT撮影される方が5年前の2倍に達しています。

当院は、23年6月にX線CT装置を更新導入しました。従来の16列の検出器から160列の検出器となったことで、1回転での撮影範囲が従来の20mmから80mmへと広範囲に撮影ができるようになりました。胸腹部の撮影では、15秒～20秒程度かかっていたものが4～5秒程度でできるようになり、息を止めることが難しい患者さんでも画像のブレがない撮影ができます。特に、命にかかわる頭の血管、心臓の血管撮影などで大きな力を発揮することができます。また、将来の診療のニーズに対応できるよう、機器のバージョンアップができることも特徴です。



更新導入した160列CT



心臓の3次元画像

併せて3次元画像解析装置の更新導入より、身体の疾患等を検索するための任意の断面画像及び立体画像の作成が、より精細に迅速にできるようになり、脳卒中、心臓病、大動脈疾患や内臓の手術等に、大きな力を発揮しています。

診療スタッフは、日々、研修、研鑽を行い、より良い診療が提供できるよう努めています。CT撮影でわからないこと、不安なことがあれば、どうぞお気軽にスタッフへお尋ねください。

中央放射線室長 岡村章仁

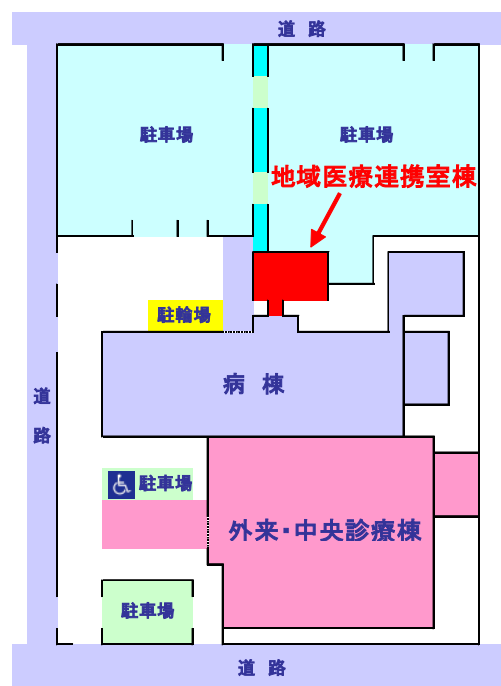
地域医療連携室棟の新設

地域医療連携室では、当院と地域の医療機関等との連携業務全般を行っています。また、患者さんやご家族には、医療ソーシャルワーカーを中心に、退院支援を始めとして、社会資源の活用、療養費の相談など各種相談業務を行っています。

昨今、地域医療連携室に求められる役割は益々増大しています。これに応えるためにも組織体制や機能の一層の充実を図る必要があり、手狭となった現在の部屋に代わる新棟(2階建)を建築中です。本館(病棟)とは2階の連絡通路で行き来でき、来年2月にオープンする予定です。もちろん、がん患者さんの交流の場である「すずかけサロン」の部屋も併設します。ご期待ください。

この新棟での業務開始を心待ちにしながら、室員一同、なお一層信頼していただける地域医療連携と相談対応に努めてまいります。皆様方のご利用とご支援をお願いします。

地域医療連携室長(副院長) 阿藤孝二郎



医療安全・感染防止対策室の取組

医療安全・感染防止対策室は、医療事故防止対策および院内感染防止対策を推進する院内組織の一つとして、紙谷室長のもと8名のメンバーで活動しています。主な役割は、院内の医療事故および院内感染発生の把握と要因分析、具体的な防止対策の検討とその推進、職員教育の企画・運営です。医療の現場で発生する問題を職員と共に協議し、防止対策推進をフォローし、その成果を評価しています。

「安全」は必要不可欠な要素ですが、一方では「人間がやることに失敗は付きもの」で、医療も例外ではありません。医療従事者は、他のどの職種よりもリスクは高い、と言われていています。医療事故や院内感染の発生を「ゼロ」にすることは容易ではありませんが、それでもなお安全な医療を提供すべく、職員と共に「安全の確保」に日々奮闘しています。



医療安全・感染防止対策室副室長 松本比登美

認定看護師紹介

感染管理認定看護師 福井昭裕

昨今インフルエンザをはじめとして、感染等に関するニュースや情報が報道されることが多くなり、病院だけではなく介護、療養、教育施設などでも感染防止対策が必要とされています。そして、感染管理認定看護師は全国で1365人（平成23年9月現在）が登録され、県内では9人が登録されています。

私は、平成23年に感染管理認定看護師資格を取得し、医療関連感染予防・対策のために、院内を組織横断的に活動しています。さまざま職種職員、関係機関と協働し、医療関連感染の低減のために院内ラウンド、研修等の活動をしています。

職員の皆さんの協力と、患者さん、ご家族の理解を得ながら活動をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



がん化学療法看護認定看護師 竹歳祥江

私は、外科病棟、婦人科病棟、内科病棟を経て、平成20年12月に外来へ配属となり、平成23年度にがん化学療法看護認定看護師の資格を取得しました。現在、外来で、専ら、がん化学療法を受ける患者様の点滴の管理と治療中の健康管理についての説明を行なっています。また、病棟看護スタッフからの薬剤管理の相談にのっています。

がん化学療法は、抗がん剤を用いて、がん細胞を破壊する治療です。手術療法、放射線療法と並び、重要な役割を果たしています。副作用を伴いますが、使用する薬の種類や組み合わせ、個人の体質によって副作用の出方や程度は全く異なります。ここ数年は、新しい薬剤が開発され、皮膚に障害がでるものもあります。様々な薬剤の種類や副作用に対応し、安全に少しでも安楽に治療を受けていただくために、医師、薬剤師、看護師、緩和ケア認定看護師と連携しながらケアを提供していきたいと考えています。



市民公開講座

『切らずに治すがん治療 放射線治療ってな～に？』 を開催しました

平成23年6月12日(日)、倉吉交流プラザにて標記タイトルでの講演会を行いました。講演は当院中央放射線室の吉田副室長と私の二人で分担し、当院で行っている放射線治療から最先端の話題まで幅広く紹介させていただきました。

来場者は、鳥取市や米子市からおいでになった方も含めて63名。会場には、「ぜったい聴きに行くからがんばって！」と予告して応援に来てくださった顔見知りの患者さん(がん以外の)の姿もちろほらあり、多くの方々が時折メモを取りながら真剣に聞いてくださいました。一般の方々の放射線治療に対する関心の高さを逆に教わった講演会でした。



当院の放射線治療装置

私が医者になった頃は、がん患者さんたちの間で「コバルト(当時の放射線治療)当てるようになったらおしまいだ。」という噂がまことしやかにささやかれていたことを思えば、近年の放射線治療の進歩はめざましく、いまや外科手術、化学療法と並んでがん治療の3本柱のひとつとなっています。来年度中には当院の放射線治療装置も最新のものに更新される予定であり、今後も鳥取県中部地区唯一の放射線治療施設として地域の患者さんのお力になれたらと思っています。

PS 上記講演会のタイトルは岡村中央放射線室長のアイデアでしたが、室長さんの硬めの風貌と、「な～に？」というかわいらしい表現のミスマッチ。私は気に入っています。

放射線科部長 橋本政幸

市民公開講座

『肺がんの予防と現状』を開催しました

平成23年9月3日に開催予定であったこの公開講座は、西日本を中心に大きな被害をもたらした台風12号の襲来により中止を余儀なくされ、10月30日にあらためて開催することとしたのですが、多くのみなさんに参加していただくことができました。

最初に大阪府立健康科学センターの中村正和先生が「肺がんの1次予防について」との演題で、禁煙の重要性と地域における受動喫煙のない環境づくりなどについてを講演されました。次に大阪府立成人病センターの中山富雄先生が「肺がんの2次予防・検診の現状とCT検診について」との演題で、検診の重要性とCT検診の有効性と問題点について講演されました。最後(3番目)に私、厚生病院の吹野俊介が「鳥取県中部地区の肺がんの現状と治療について」との演題で、早期発見できれば身体に負担の少ない手術ができ、治る確率も高いことなどについて講演しました。



質問に答える吹野中央手術センター長

すべての講演で強調されたのは、禁煙と受動喫煙防止による肺がんの予防、検診による治りうる時期の肺がんの発見の重要性、そしてCT検査の有用性でした。熱心な演者と聴衆で、予定時間をオーバーして3時間に及ぶ講演と質疑応答となり、参加していただいたみなさんには、肺がんの予防と早期発見の重要性について理解していただけたものと確信しています。

中央手術センター長 吹野俊介

近年の看護局の取組

医師・看護師不足という医療界の大きなうねりの中で、なかなか先の見えづらい状況で経過した就任後3年半でした。

看護学校行脚、教育体制の整備、外来事務補助職員の導入、外来・病棟の看護体制一元化、院内保育施設の整備、育児支援対策の充実等々…。「疲弊しない、そして離職しない」ための看護師の労働環境整備を中心に、病院全体で看護師確保に取り組んできたことで次のような成果を得ることができ、やっと念願であった3人夜勤体制の確立がかなったところです。

☆平成21年7月 閉鎖していた7階病棟を再開

☆平成22年6月 7対1看護体制を開始

☆平成22年7月 準夜3人体制を開始

☆平成23年9月 深夜3人体制を開始



新人看護師研修の様子

看護師不足という後ろ向きになりそうな雰囲気を跳ね返し、看護のやり甲斐感に繋がるようスタッフの意識変革に努め、看護の質の向上を目標に掲げて取り組んできました。現在、6名の認定看護師に加え2名を認定看護師研修に派遣しており、専門性を高めるべき体制づくりに励んでいます。

平成23年度に看護局は31名の新入職者を迎え、総勢340名の大所帯となりました。今年度から副看護局長は計4名に、教育担当副看護師長は各病棟で1名増とし、管理・教育体制を改善しつつ、さらに質の高い看護の提供を求めていきたいと考えています。

院長が目指す「誠意ある医療の提供」に沿って、中部地区住民の皆様には選ばれる病院づくりに今後も努めていく所存です。

看護局長 村口三枝子

秋藤医療局長の鳥取県健康対策協議会会長表彰受章

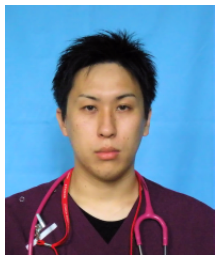


表彰を受ける秋藤医療局長(左)

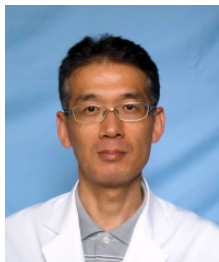
当院の秋藤洋一医療局長は、昭和63年4月から現在まで鳥取県健康対策協議会胃がん検診読影委員及び委員長として、胃がんの予防と精度管理向上に尽力してこられました。また、同協議会胃がん対策専門委員会委員、肝臓がん対策専門委員、大腸がん対策専門委員等として、これらのがんの早期発見、早期治療に努めるとともに、従事者講習会や症例検討会を開催し、検診従事者の資質向上に努めてこられました。これらの尽力が認められ、平成23年6月11日、同協議会会長表彰を受章されました。また、9月6日には同様の功績で「対がん事業功労者」として、鳥取県保健事業団から感謝状の贈呈を受けられました。

今後も引き続き本県のがん対策に関わりながら、従事者の資質向上、住民のみなさんへの普及啓発、後進の指導などに努めていかれるとのことです。

益々のご活躍をお祈りいたします。



小児科
後藤 保 (医師)
7月1日着任



脳神経外科
谷浦 晴二郎 (医長)
9月1日着任



産婦人科
大野原 良昌 (部長)
10月1日着任

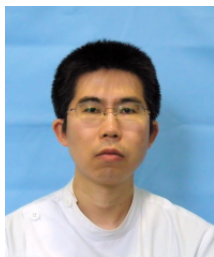


退職者

医師

消化器外科 竹林 正孝
小児科 岡山 良樹
脳神経外科 石橋 美名子
産婦人科 澤住 和秀

お世話になりました。



消化器外科
下田 竜吾 (専攻医)
7月1日着任



外科
大月 優貴 (専攻医)
10月1日着任

各種研修・訓練の様子

当院では職員の資質向上、緊急時の対応など、年間を通じて様々な研修や訓練を実施し、また参加しています。その様子を一部紹介します。

鳥取県DMAT隊員養成研修(平成23年10月27・28日)

当院は国から災害拠点病院の指定を受けており、DMAT(災害派遣医療チーム)を組織しています。

写真はDMAT隊員を養成するための訓練の一環で、救急隊(消防)と協力し、地震で倒壊した建物に取り残された人に最低限の医療処置をしながら救出する訓練の様子で、当院のDMAT隊員がインストラクターとして参加しています。



接遇研修(平成23年10月14日)



職員には、患者さんやご家族に気持ち良く病院をご利用いただけるよう、適切なあいさつや言葉づかいと笑顔の対応が求められます。写真は職員が「素敵な笑顔」づくりに励んでいる様子です。この研修では、患者さんやご家族が職員から何をお聞きになりたいのか、職員へ何を伝えようとしておられるのかを共感を持って接することの大切さも学びました。

強毒型インフルエンザ患者搬送訓練(平成23年10月27日)

当院は県内唯一の一類感染症(エボラ出血熱など、感染力、罹患した場合の重篤性などが極めて高い感染症)に対応した病床を有する感染症指定医療機関です。世界的に警戒されている強毒型インフルエンザの封じ込めを目的として、中部福祉保健局、中部医師会との合同でランジットアイソレーター(患者隔離搬送装置)を用いた訓練を実施しました。

写真は当院の専用搬送場所から感染者が運び込まれる様子です。



鳥取県立厚生病院						
外来診察日程表						
平成23年11月15日現在						
科名 / 曜日	月	火	水	木	金	土
消化器内科	万代 真理 (肝臓)	野口 直哉 (消化器)	斧山 巧 (消化器)	北村 厚 (消化器)	永原 天和 (肝臓)	
内科	一診	佐藤 徹	山本 了 (腎臓内科)		PM 山本 了 (腎臓内科)	
	二診	秋藤 洋一	永原 天和	佐藤 徹	秋藤 洋一	野口 直哉
	三診	森 正剛 (循環器内科再診)	秋藤 洋一 (総合内科)	村脇あゆみ (糖尿病・内分泌)	松澤和彦(鳥大) (糖尿病・内分泌)	
	四診	村脇あゆみ	岩垣 尚史	万代 真理	斧山 巧	北村 厚
呼吸器内科	岩垣 尚史		山本 芳麿	山本 芳麿	岩垣(第1,3,5週) / 山本(第2,4週) (肺癌検診・再診)	
精神科		植田 俊幸 (予約のみ)		植田 俊幸 (予約のみ)		
脳神経内科	土井 浩二		土井 浩二		土井 浩二	
循環器内科	澤口 正彦	AM 森 正剛 (救急対応・院内紹介)	澤口 正彦	AM 森 正剛 (救急対応・院内紹介)	森 正剛	
小児科	一診	AM 岡田 隆好 PM 奈良井 栄	後藤 保 (3週間健診あり)	奈良井 栄	岡田 隆好 (3週間健診あり)	奈良井 栄
	二診	AM 後藤 保 PM BCG接種(注1)	PM 予防接種(注1)	AM 洲崎 一郎 (脳小外来)(注意2)	AM 洲崎 一郎 (脳小外来)(注意2)	AM 後藤 保 (3週間健診あり) PM 乳児検診(注5)
	三診	PM 前垣義弘(鳥大) 脳小外 来(注3)			花木啓一(鳥大) 内分泌外来(注4)	PM 予防接種 (注1)
外科	一診	大月 優貴	吹野 俊介 (呼吸器・一般外科)	大月 優貴	吹野 俊介 (呼吸器・一般外科・乳腺)	吹野 俊介 (呼吸器・一般外科・乳腺)
	二診	児玉 渉 (一般外科・乳腺)	浜崎 尚文 (心臓血管)	岸本 諭	浜崎 尚文 (心臓血管)	児玉 渉 (一般外科・乳腺)
	三診					第1・第3金曜日 西村元延(鳥大)
消化器外科	西江 浩	岸 清志	岩本 明美	前田(下田)	岸 清志	
整形外科	一診	能勢 道也	橋本 達宏	西原 彰彦	西原 彰彦	橋本 達宏
	二診	西原 彰彦(10時まで)	阿藤孝二郎	能勢 道也	阿藤孝二郎	能勢 道也
脳神経外科	一診	紙谷 秀規	谷浦晴二郎	第2・4水曜日 赤塚啓一(鳥大) (脊髄外来)	紙谷 秀規	谷浦晴二郎
	二診	谷浦晴二郎 (予約診)	紙谷 秀規 (予約診)		谷浦晴二郎 (予約診)	紙谷 秀規 (予約診)
皮膚科		塩見 達志 (鳥大)				
泌尿器科	村岡 邦康	村岡 邦康	AM 日向信之 (鳥大)	村岡 邦康	村岡 邦康	
産婦人科	一診 (婦人科)	門脇 浩司	周防 加奈	大野原良昌	門脇 浩司	大野原良昌
	二診 (産科)	大野原良昌	澤住 和秀	門脇 浩司	周防 加奈	周防 加奈
	不妊外来は、 AM8:30~9:00	大野原良昌		大野原良昌		大野原良昌
助産師外来	午前	○		○	○	
	午後	○		○		
眼科		山本由紀美 (鳥大)			三宅 / 蝶野 / 魚谷 (鳥大)	
耳鼻いんこう科	橋本 好充	橋本 好充	橋本 好充	橋本 好充	橋本 好充	
放射線科	一診	橋本 政幸	橋本 政幸	橋本 政幸	橋本 政幸	橋本 政幸
	大応 学 援	足立 憲	矢田 晋作			道本 幸一
動脈硬化外来				PM 浜崎尚文	PM 澤口正彦	
緩和ケア外来			PM(15:00~16:00) 岩垣 尚史			
禁煙外来		PM(14:00~15:00) 秋藤 / 吹野				

休

診

- (注1) 月曜日のBCG接種、火曜日・金曜日の予防注射は午後からです。予約が必要です。
- (注2) 水曜日・木曜日の脳神経小児外来は予約が必要です。なお、第1木曜日は休診になります。
- (注3) 月曜日の脳神経小児外来は第1月曜日の午後です。予約が必要です。
- (注4) 木曜日の内分泌外来は月2回です。予約が必要です。
- (注5) 金曜日の乳児検診は13時30分から受付、14時開始です。

◎診療時間 8時30分から17時まで

◎受付時間 ☆新患 8時30分から11時まで

☆再来 7時30分から11時まで(自動再来受付機)

☆土曜日、日曜日、祝日、平日時間外も救急患者は受付します。

注) 皮膚科の診察日は12月1日から水曜日へ変更となります。

院内ボランティア募集！！

当院では、患者さんが少しでも快適な療養生活が過ごせるよう、また、安心して外来診療ができるよう、患者様のサポート活動として、院内ボランティアを随時募集しています。

☆活動内容

総合案内での誘導、各診療科への案内
高齢者、障害者の援助等



【お問い合わせ先】
鳥取県立厚生病院 総務企画課
TEL0858-22-8181（内線 3425）
e-mail : kouseibyounin@pref.tottori.jp

鳥取県立厚生病院50周年に向けて



北側駐車場出口ゲート横の「厚生」の碑

北側駐車場出口ゲート横の「厚生」の碑
と思いますが、その際、往時を知る方々のご協力をお願いすることになると考えていますので、その節は
よろしくお願いたします。

厚生病院は、昭和5年に日本で初めての産業組合立の総合病院として設立され、昭和38年に県に移管されて現在の鳥取県立厚生病院となりました。平成25年には県移管後の大きな節目となる50周年を迎えます。

当院では、この節目を迎えるに当たり、半世紀を振り返っての記録づくりや記念行事の開催を検討しています。

記録づくりの過程では写真などの資料や情報の収集等が欠かせないと思

写真などの資料や情報の提供についての連絡先

鳥取県立厚生病院 総務企画課
TEL0858-22-8181（内線 3422）
e-mail : kouseibyounin@pref.tottori.jp

病院概要

名称

鳥取県立厚生病院

所在地/連絡先

〒682-0804

鳥取県倉吉市東昭和町150番地

TEL 0858-22-8181(代)

FAX 0858-22-1350(代)

HP <http://www.pref.tottori.jp/kouseibyounin/>

診療時間

午前8時30分から午後5時まで

予約制(再来患者の希望者)もあります

診療科目等

内科 呼吸器内科 消化器内科

循環器内科 脳神経内科

外科 消化器外科 心臓血管外科

脳神経外科 整形外科

精神科 小児科 皮膚科 泌尿器科

産婦人科 眼科 耳鼻いんこう科

リハビリテーション科 放射線科 麻酔科

受付時間

☆ 新患：平日 午前8時30分から11時まで

☆ 再来：平日 午前7時30分から11時まで

☆ 救急患者は、土曜日、日曜日、祝日、平日時間外も受け付けます